

3:8 執事もまたこういう人でなければなりません。謹厳で、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利をむさぼらず、

3:9 きよい良心をもって信仰の奥義を保っている人です。

3:10 まず審査を受けさせなさい。そして、非難される点が無ければ、執事の職につかせなさい。

3:11 婦人執事も、威厳があり、悪口を言わず、自分を制し、すべてに忠実な人でなければなりません。

3:12 執事は、ひとりの妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。

3:13 というのは、執事の務めをりっぱに果たした人は、良い地歩を占め、また、キリスト・イエスを信じる信仰について強い確信を持つことができるからです。

## はじめに

前回のテモテ第一の手紙の学びでは、長老に関する聖書的背景とその資質について、3章 1-7 節から学びました。

今日はまず、聖書が執事について何と教えているかを見ていきます。その後、テモテ第一 3章 8-13 節でパウロが教える執事の資質に注目します。

## 執事に関する聖書の教え

### 1. 「執事」という単語を理解する

日本語の聖書で「執事」と訳されたギリシャ語の単語は、「しもべ」または「仕える人」という意味です。

この単語を理解する上で重要なのは、その背景と執事が関わっていたのが誰なのかを理解することです。

新約聖書では、「執事」は、「長老」に仕えて支えるために任命されました。

ですから、新約聖書におけるこの単語の理解は、教会の働きにおいて長老たちを補助するために任命された人々ということになります。

執事は、長老を補助するのに適任と認められたアシスタントです。

教会で何らかのかたちで奉仕しているすべての人を「執事」と混同してはいけません。

OIC には、教会が毎週スムーズに運営されるためにあらゆる奉仕をしてくださるイエスのしもべがたくさんいます。もちろん、その方々が与えられていることを神に感謝していますし、とても大切な存在ですが、その人たちが皆、聖書に記されている「執事」と認められるわけではありません。

### 2. 「執事」の働きを理解する

執事は、長老ではありませんから、教える必要はありません。（しかし、教えることもできます。）

パウロが執事の資質を列挙した際、長老の資質では挙げていたけれど、執事の資質では挙げていないものがあります。

それが、教えることができるという資質です。

後ほど執事の資質について学びますが、「執事」は教会で聖書を教える教師にならなくてもよいというのは重要なポイントです。

神のみことばを教える能力が、長老と執事を区別する違いです。

では、執事の働きについて見ていきましょう。

使徒 6 : 1-7 は執事の起源だと指摘する聖書学者もいます。

使徒 6 : 1-7

6:1 そのころ、弟子たちがふえるにつれて、ギリシヤ語を使うユダヤ人たちが、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して苦情を申し立てた。彼らのうちのやもめたちが、毎日の配給でなおざりにされていたからである。

6:2 そこで、十二使徒は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばをあと回しにして、食卓のことに仕えるのはよくありません。

6:3 そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。

6:4 そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」

6:5 この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、アンテオケの改宗者ニコラオを選び、

6:6 この人たちを使徒たちの前に立たせた。そこで使徒たちは祈って、手を彼らの上に置いた。

6:7 こうして神のことばは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰に入った。

しかし、そう関連付けるには問題があります。

まず、パウロもルカもそのような関連性について一切語っていません。

執事という役職はこの7名に与えられていません。彼らは、教会員に食事を配給するという具体的な目的のために会衆から選ばれました。多くの人が貧しかったからです。

教会の歴史の最初期から任命された人たちが日常的な役割を果たしていたことは疑いの余地がありません。しかし、この使徒6:1-7を執事の起源と直結することはできません。

むしろ、神の権威のもとでパウロが教会における長老の働きを支える正式な役職の必要性を感じたというのが現実に近いと考えられます。

執事は、貧しい人に食事を配る人以上の役割です。

執事がするべき実際の役割については、細心の注意を払うべきです。

執事について聖書は役割を明言していないからです。

執事の職務は、教会の大きさや必要、個々の教会員の賜物によって、長老が決めなければなりませんでした。

長老が執事をどのように監督し役立たせるかについては柔軟に考えられることが新約聖書からうかがえます。

教会員には皆、何らかのかたちで仕える責任がありますが、執事の役割は明確にしておかなければなりません。

ここで OIC に当てはめて考え、教会の働きの中で明らかにパウロが挙げた資質によって適任と認められた執事の役割であるとみなされるものを挙げておく必要があります。

## 1. 音楽は、日曜日に神を礼拝するための重要な部分です。

聖書を引用するなど多少教えるという要素も含まれますが、賛美をリードするときには、聖書に基づいてその日のみことばの教えに関連した歌を選ぶという重要な役割があります。

この教会では、その働きがしっかりなされていると私は思います。歌を選び、賛美チームをリードする人は、執事と認められる人であるべきです。

私たちの教会では、この働きのために複数の執事が必要でしょう。

その働きは、長老が神のみことばを教えるのを支えます。

聖書の教えに基づいた良質の賛美は、神のみことばを聞くために会衆の心を整えてくれます。

## 2. 牧会訪問・病院訪問

長老が病気の人たちのために祈るのは大切な働きです。また可能な場合は病院や自宅に訪問するのも大切です。

病気の人がひとりのときはそれで大丈夫ですが、それでもたいへんです。

小野さんが入院されていた時、私はほぼ毎週お見舞いに行っていました。去年はクリスマスの日、看護師さんたちのために夫婦で「きよしこの夜」を歌ったりもしました。

一日事務所で仕事をした後で、こういった病院への訪問をするのはなかなかたいへんです。

けれども、たくさんの人を訪ねる必要があるとか、たくさんの人が牧会的サポートを必要としていることもあります。  
ですから、適切な賜物がある適任者を病気の人やうつ傾向の人、さまざまな悩みを抱える人への牧会訪問のために任命する必要があります。  
カウンセリングの資格やトレーニング経験を持つ人がよいかもしれません。  
適任と認められた執事には確実に、OICの長老の働きを支える働きがあります。

### 3. 運営管理・長老秘書業務

運営管理は、教会が機能していく上で大切なもうひとつの分野です。  
多くの牧師は、運営管理の賜物を持っていないと感じるので、この分野で多くの助けが必要です。  
文書作成や記録、教会の運営といった賜物を神からいただいている人たちがいます。  
個人的な内容の手紙を書いたり、個人情報管理したり、教会の秘書のもとにはあらゆる情報が寄せられます。  
これは確実に、適任と認められた執事の役割です。  
私がOICの牧師募集に応募したとき、ふたりも秘書がいると聞いて驚きました。翻訳をする係と事務所管理や私の補助、教会運営をする係で分担しているのです。  
OICでは二か国語という働きの形態をとっているのです、このふたつの役職が必要です。  
これは確実に執事の職です。  
長老の働きを助けるからです。  
このふたりの秘書がいなければ、私は牧師、長老、教師としての働きができないでしょう。

他の執事の働きについてお話する時間はありませんが、とくにこの3つはOICでの私の働きを支えてくれる分野です。  
この働きに携わっている人たちは認められるべきであり、その役職に就いて働きを成すために適切なトレーニングや資格を持っているべきです。  
誰かれなく連れてきて働きの空きを埋めるといはいけません。  
少数の適任者がいるほうが、多数よりもよいのです。

要点を手短に説明しましたが、これを踏まえて、執事の資質について学んでいきましょう。  
パウロは、長老を支えるためにすべての教会に執事が必要だと考えています。

ラテン語訳聖書の翻訳者ヒエロニムスは、若い長老に宛てた手紙の中で、当時の教会（紀元394年）を非難しています。そこには、教会が適切な指導者を選ぶことよりも教会堂の見た目のほうに関心があるとあります。以下はその内容です。

「最近では、多くの者が教会を建てる。つややかな大理石で壁や柱を造り、天井には金箔を施し、祭壇には宝石を埋め込む。にもかかわらず、キリストの働き人の人選には気を留めない。」  
ニケアおよびポスト・ニケアの教父たち 6:94 「ヒエロニムス 第52の手紙」より

## 執事の資質

### 1. 謹厳（8節）

ここで使われているギリシャ語の単語は、「セムノス」です。訳するのが難しい単語ですが、尊敬に値する評判の良い人という意味です。  
新共同訳では、「品位のある人」と訳されています。  
「品位のある人」として挙げるのにふさわしいのはテモテです。

使徒 16:1-2

16:1 それからパウロはデルベに、次いでルステラに行った。そこにテモテという弟子がいた。信者であるユダヤ婦人の子で、ギリシヤ人を父としていたが、  
16:2 ルステラとイコニオムとの兄弟たちの間で評判の良い人であった。

現代であれば、このような人はクリスチャンの性質や生き方の模範やお手本だと言われるでしょう。

## 2. 二枚舌を使わず (8 節)

この資質は、会話における誠実さを強調します。  
これは大切な資質です。というのも、執事は長老と教会員のコミュニケーションを取り次ぐ役目を果たすからです。  
執事は、正直に話す人でなければなりません。  
真実を隠したり妥協したりしてはいけません。

### 伝道者の書 10 : 1

10:1 死んだはえは、調合した香油を臭くし、発酵させる。少しの愚かさは、知恵や栄誉よりも重い。

## 3. 大酒飲みでなく (8 節)

飲酒を完全に禁じているのではありませんが、たくさん飲むことは許されません。

### 箴言 20 : 1

20:1 ぶどう酒は、あざける者。強い酒は、騒ぐ者。これに惑わされる者は、みな知恵がない。

### 箴言 23 : 29-30

23:29 わざわいのある者はだれか。嘆く者はだれか。争いを好む者はだれか。不平を言う者はだれか。ゆえなく傷を受ける者はだれか。血走った目をしている者はだれか。  
23:30 ぶどう酒を飲みふける者、混ぜ合わせた酒の味見をしに行く者だ。

これは読んだとおりで説明は必要ありません。

## 4. 不正な利をむさぼらず (8 節)

### テモテ第一 6 : 9-10

6:9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。

6:10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。

イエスは、宗教指導者たちを「金の好きな者」と言って非難されました。  
また、彼らがやもめの家から盗んでいると責められました。

### ルカ 16 : 14

16:14 さて、金の好きなパリサイ人たちが、一部始終を聞いて、イエスをあざ笑っていた。

### ルカ 20 : 45-47

20:45 また、民衆がみな耳を傾けているときに、イエスは弟子たちにこう言われた。

20:46 「律法学者たちには気をつけなさい。彼らは、長い衣をまとって歩き回ったり、広場であいさつされたりすることが好きで、また会堂の上席や宴会の上座が好きです。

20:47 また、やもめの家を食いつぶし、見えを飾るために長い祈りをします。こういう人たちは人一倍きびしい罰を受けるのです。」

この資質は、非常に重要です。金銭への執着は、妥協や腐敗のもとになるからです。

## 5. きよい良心をもって信仰の奥義を保っている (9 節)

執事は、キリスト教の信仰の内容をよく知っていなければなりません。

「信仰の奥義」という表現は、福音特有の真理全般を指してパウロが使うフレーズです。

ギリシャ語の「奥義」という単語は、啓示された秘密という意味です。

つまり、旧約聖書の教えでは、「福音」のメッセージはある意味人々に隠されていました。

パウロは、異邦人に福音のメッセージを明かすために神から召されたと言います。

### ローマ 16 : 25-26

16:25 26 私の福音とイエス・キリストの宣教によって、すなわち、世々にわたって長い間隠されていたが、今や現されて、永遠の神の命令に従い、預言者たちの書によって、信仰の従順に導くためにあらゆる国の人々に知らされた奥義の啓示によって、あなたがたを堅く立たせることができる方、

福音のメッセージを聖書全体から理解することが執事にとって大切です。

すべての教会は、執事のためにトレーニングマニュアルを用意すべきです。

そこには、創世記から新約聖書にわたる福音の教えが含まれているべきです。そして、少なくとも、基本的教理と呼ばれる 20 項目のキリスト教の信条も含まれているべきです。

以下の本を読んで学ぶことで、知って理解しておかなければならない基本の事柄をおさえることができます。

1. 聖書。すべてを読むこと。
2. By This Name - John Cross (「この名によって」ジョン・クロス)
3. Christian Beliefs – Wayne Grudem. (「クリスチャンの信条」ウェイン・グルードム)

しかし、聖書についての真理とその教えを知るだけでは十分ではありません。私たちは「きよい良心をもって」真理を知らなければならぬとパウロは言います。

これはどういう意味でしょう。

神は、すべての人に良心を与えておられます。これは、自己吟味を可能にします。または、正しいことや間違っていることについて私たちが信じることを語りかける内なる声です。

自分の行いが道徳的かどうかを内側から認識させてくれます。

私たちの良心はさばく役割も導く役割も果たします。

ですから、クリスチャン信徒にとって、良心に抗うのは決して正しくありません。

信仰に逆らい、赦しと矯正を求めないでいると、必ず良心が汚されます。これは罪です。

クリスチャンが良心に逆らうと、罪を自覚させる良心の力が弱まるのです。

### テモテ第一 4 : 1-2

4:1 しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。

4:2 それは、うそつきどもの偽善によるものです。彼らは良心が麻痺しており、

終わりの日の特徴のひとつは、人々が良心に耳を傾けなくなることです。ニュースや新聞を見れば、それが現代の現実であることがわかります。

残念ながら、クリスチャンだと言う人たちも影響されています。

信徒は皆、聖書を自分で学び続けなければなりません。その教えは、この世の信じることとは違うからです。

先週、ブライアン・オズボーン氏も触れていましたが、創世記 1 章の教えについて聖書が明確に教えていることから多くの信徒たちが離れてしまっています。

ブライアン氏は、地球の年齢について間違ったことを信じると、その人の信仰や証にどんな影響があるかを教えてくれました。

福音のメッセージにも同じことが言えます。

きよい心をもって信仰の奥義を保つ人とは、聖書の教えとその生き方が一致している人です。新約聖書は、神のみことばにしたがった生き方をしなければならないと教えます。

## 6. 執事は仕える前にまず審査を受けなければならない。

これはとても大切な教えです。

多くの教会は、任命する前の審査を怠ります。前回の説教では、牧師や長老の任命の前に確認する事柄について学びました。

けれども、同じことが執事として仕える場合もなされなければなりません。

この個所の構成から、審査は 8-9 節に関連することを示します。

「審査」と訳されたギリシャ語の単語は、ある物事を批評するという意味です。古代ギリシャ語では、この単語が官公庁の役人の資格証明書を調べる場合などに使われました。

執事はその役に就く前にしっかりと審査される必要があるとパウロは言っています。

そして、「非難される点がないければ」とありますが、これはまったく欠点がないという意味ではありません。

誰にでも欠点や人の気に入らない部分があります。

非難される点がないとは、8-9 節の資質に関してです。

テモテは、執事の人選にかかわる審査の責任者でしたが、おそらく会衆の人たちにも手伝ってもらっていたでしょう。

## 7. 執事の妻 (11 節)

11 節では、聖書学者の間で神学的立場の違いが突然表面化します。

英語の新欽定訳およびニューリビング訳では、この個所を素直に読めば、パウロが男性執事の妻について語っていることが示されています。

しかし、女性執事という役職があったと論じる見解もあります。

ここでは明らかに、男性執事の妻についてパウロが語っていると私は思います。

この個所の前後関係からそう考えます。

既婚男性にとって、一番大きく影響を受ける人間は妻です。

結婚していない人は、この点について私の話を信じるしかありませんが、私は 43 年近く結婚生活を送っています。

以下の聖書個所は、良い妻を持つことの大切さを示しています。

### 箴言 12 : 4

12:4 しっかりした妻は夫の冠。恥をもたらす妻は、夫の骨の中の腐れのような。

### 箴言 19 : 14

19:14 家と財産とは先祖から受け継ぐもの。思慮深い妻は【主】からのもの。

### 箴言 31 : 10,12

31:10 しっかりした妻をだれが見つけることができよう。彼女の値うちは真珠よりもはるかに尊い。

31:12 彼女は生きながらえている間、夫に良いことをし、悪いことをしない。

聖書は、良い敬虔な妻は、執事である夫の評判を高めると教えているわけです。妻は、夫がキリストに似た者としての人格形成と教会での働きに、もっとも重要な影響を与える人物です。

11 節で、妻に関する資質が挙げられていますが、執事の妻に問われる資質は、「悪口を言わず」というものです。

これは、「中傷せず」と訳されている場合もあります。

「悪口を言わず」と訳されたギリシャ語の単語は、悪魔を指して使われている単語と同じです。

これは、悪魔が偽りの父だからです。(ヨハネ 8 : 44)

悪口を言う人、中傷する人、というのは、うわさを広めたり、誤った印象を与えたりします。半分しか本当でない内容やいいかげんな意見、印象を誰かにそのまま伝えてしまうというのは簡単に起こることです。

誰かの表情から間違った印象を受けることもあります。その印象を誰かに話して、実は違っていたということもあります。

うわさ話というのは害毒です。人の人格を傷つけるものです。ですから、長老や執事の配偶者がうわさ話など断じてあってはいけません。

#### 8. 執事は家庭をよく治め、性的に節操があり、忠実な人でなければならない。(12 節)

まず説明しておかなくてはならないのは、「ひとりの妻の夫であって」という部分です。

これについては 100 年以上もあらゆる論争があります。

これは、パウロがテモテ第一 3 章だけで用いた独特の言い回しです。

これはギリシャ語の 3 つの単語からなっています。

性的な意味でも他の女性への接し方においても妻に忠実であることを指します。

これは、人格的な資質です。一部の人が考えるように、聖書の教えに則って正当に離婚した人を失格と判定するものではありません。

執事に問われる最後の資質は、子どもをしっかり治めていることです。

これは、長老に関する個所ですすでに学びました。

自分の子どもに心を注いでしっかり育てられないようなら、教会の信徒の集まりという多様な人々を育てるのはむずかしいだろうという当然の流れです。

以前も言ったように、子育ては簡単ではありません。私たち夫婦は 4 人の子どもを育て、今でも彼らと孫たちを 7,000 キロ離れた日本から支えています。

今は、スカイプを使っておじいちゃんおばあちゃんの役割を果たすことを学んでいる最中です。

#### まとめと適用

では、この個所の教えから、どんなことを学べるでしょう。

1. OIC には、執事として任命されている人はいませんが、いるべきです。変化を受け入れるのは難しいですが、聖書に従うよう変わろうとするなら、神がその努力を祝福してください。
2. 誰かを任命する前にしっかり審査すれば、OIC での働きに問題が起こる可能性は低いでしょう。私たちは霊の戦いの渦中にあります。そして、常にあらゆる課題に直面します。しかし、OIC のリーダーや奉仕者の生活をとおして悪魔に隙や足がかりを与えるようなことはしたくありません。
3. 執事として仕えることは大きな責任ですが、神が選ばれた人たちに与えられる働きです。執事として OIC で仕えるよう、神はあなたを召しておられますか。OIC に長老や執事を任命するためには、その責任を担う覚悟のある男性が必要です。そして、責任をもってその役割を果たすために神から認められるには、聖書に基づいて適任と認められる男性が必要です。会衆と現状のリーダーたちがそのような変化を望むなら、私たちの課題は、OIC で長老や執事として仕える責任を負う人を神が起こしてくださるように祈ることです。